



しょうれん 力障連「わ」会 報

No.80 2017. 3.21 発行

二〇一七年三月二十一日発行（毎週火曜日）

AJU増刊二二五六〇号

一九七九年八月一日

低料第三種郵便物認可

定価一〇〇円

目次

巻頭言

津久井やまゆり園の事件から思うこと

協力司祭 英 隆一郎……………1

横浜大会準備状況 実行委員 横井 圭介…2

アンケートご協力をお願い

会長 江戸 徹……………3

フェイスブック開設について

運営委員 田中 実……………5

研修セミナーに参加して

高崎教会 小池 政男……………5

加盟団体紹介

一粒の麦の会 理事長 小瀬良 明……………9

札幌カリタス家庭支援センター

菊池 秀治……………10

役員会報告

折り込み 力障連パンフレット（改訂版）……………11

筋痛性脳脊髄炎に伴う署名のお願い

かんとうげん 巻頭言

つくい えん じけん おも 津久井やまゆり園の事件から思うこと

きょうりょくしさい はなふさ りゅういちろう
協力司祭 英 隆一郎

2016年は障がい者にとって、2つの大きな出来事があった。4月から障害者差別解消法が施行され、日本社会全体が差別のない社会にしていくという明確な方向性が示された。ところがそれをあざ笑うかのよう、7月には津久井やまゆり園の事件が起こった。重度の障害者は生きていく価値がないから、抹殺するという戦後最大の殺人事件が起きたのだ。解消法という流れの中で、この悲劇をどう乗り越えていくかという大きな問いかけが私たちに与えられた年であった。事故後、力障連も公式声明文を発表した。私

自身、それについて思うことは多々あるが、その一部を記しておきたい。

この事件のさまざまな評論の中で、はつとさせられたのは、このような施設職員の厳しい待遇を指摘していたものだ。この園は、民間や家族では支援が困難な重度の障害者（話せない・IQ測定不能・強度行動障害・重複障害など）を引き受けてきた。その中では、支援の効果は見えにくいし、達成感も得にくい。さらに精神的緊張を強いられ、労働条件は非常に厳しい。このような施設では、健康な職員でも3年くらいしか続かず、ほとんど使い捨てのような状態だという。支援する側の人でも大きな抑圧のもとで働いている現実があるという。

加害者はもともと教員志望だったが、その夢はかなわず、方向転換をして、介護の仕事をするようになったという。また精神的な弱さを抱えていた。自分の夢がかなわず、しか

も極度に心身を消耗させる職場に就いたこと
によって、心が病んでしまったのではなから
うか。

心が痛むのは、彼自身が生きづらさを抱え
ていることだ。生きづらさを抱えている人
が、さらに大きな生きづらさを抱えている人
びとを抹殺したということに、大きなショッ
クを感じる。彼は優生思想に基づいて、弱者
を排除すれば社会がよくなるという妄想に囚
われていた。でも、よく考えれば、優生思想
に基づく社会の中では、彼こそが排除される
側にいるのだ。ということは、彼が本当に
抹殺したかったのは、生きづらさを抱える
自分自身だったのかもしれない。この社会の
中では、彼が生きていく居場所もなかったの
であろう。

「心を入れ替えて子どものようにならなけ
れば、決して天の国に入ることはできない。
自分を低くして、この子どものようになる人が、
天の国で一番偉いのだ」(マタイ 18,3-4)。

私たちは真剣に福音の価値を黙想し、それ
を生きる使命がある。現代社会だけでなく、
人間の心の奥底に、この優生思想があること
を認めざるをえない。福音は優生思想に真っ
向から反対している。私たちには福音を宣べ
伝える使命があるのだ。

よこはまたいかいじゅんび じょうきょう 横浜大会準備状況

よこはまたいかいじつこういん よこい けいすけ
横浜大会実行委員 横井 圭介

開催日：2018年10月20日(土)～21日(日)
場 所：横浜聖光学園に決定

こんにちは、力障連横浜大会準備委員会の
横井と申します。

昨年9月29日、日力障連の江戸会長をは

じめとする三役、そして当準備会の数人で、
横浜教区長の梅村昌弘司教の所へ、開催の
正式なお願いに参りました。梅村司教様は快
く受けて下さり、窓口を横浜教区福祉委員会
の芹沢神父にして進めていって下さいという
ことや、教区としても出来るだけ支援したい
という旨の事、神奈川第三地区の方に対しま
ずアナウンスし協力を仰いでいったら良いと
いうアドバイスもして下さいました。この
結果、横浜大会は2018年10月20日・21
日、横浜聖光学園で行う運びとなりました。

ここからの日程として、1月22日に行わ
れた神奈川第三地区の共同宣教司牧委員会
全体会議の中で、この大会の事、そして協力
を仰ぎたいという事をお願いし、そこから
横浜教区内の教会や団体、そして全国に向け
てアナウンスしていくこととなります。また
現在は、教区の中にある「障害と共に歩む集
い」と何かしらリンクをさせる形で大会を
行っていきたいと考えています。

テーマについてははっきりしたものは決
まっていますが「お互いの弱さを分かち合
う」というような内容を現時点では考えてい
ます。同教区の中で起こった、やまゆり園で
の殺人事件。私たち一人一人の中に隠れてい
るかもしれない「優生思想」から目を背ける
ことなく、そことどう対峙していくか、そし
てこの痛ましい事件を決して風化させてはい
けない。準備委員会の一人一人がそのような
思いを持っています。また優生思想に立ち
向かうには、理論武装をすとかではなく、
ひとりひとりの中にある弱さを認めること、大事
にすること、それを他の人と分かち合う事。
小さなことかもしれませんが、こういう事が
大事なのかもしれません。

大規模な大会、成功する大会という事では

なく、集まった一人一人が出会い、お互いの弱さや限界を分かち合い、その輪が広がって行く。そんな大会になればいいなと強く願っています。

準備会に一人でも多くの方が参加してほしいと願っているのですが、始動が遅かったことがあり、まだまだ、特に当事者の声を反映させるようなものとはなっていないのが現状です。これから準備会は実行委員会という形でシフトしていきますが、是非とも当事者のさらなるご参加をお願いしたいと思います。

そして、今年からキャラバンも少しずつ始まっていくこととなります。皆さまのご支援を心からお願い申し上げます。

※下記アンケートは、今まで役員会で議論を重ねてまいりましたものです。近々に全国の教会にお願ひするものです。アンケートが届きましたらご協力を下さいますようお願い申し上げます。

アンケートご協力のお願い

カトリック教会
主任司祭様
信徒会長様

日本カトリック障害者連絡協議会

会長 江戸 徹
顧問司祭 前田 万葉
協力司祭 英 隆一朗

私たち日本カトリック障害者連絡協議会(以下、カ障連)は、1982年にヨハネ・パウロ二世の来日を機に発足し、「ミサへの完全参加と平等」を掲げ、カトリック精神に基づいた障害者・病者の団体が手を携え、

協力し合って、社会の福音化を目指して活動してまいりました。34年たった今もなおまだ、障害・病を抱えた人や弱い立場に置かれ、声も上げられず苦しみ悩んでいる方がたも多く、支え合う仲間を求めています。そのような現状にひとつの光が差し込んだのは、2016年4月から施行された「障害者差別解消法」です。この法律は何事も障害を理由に差別してはならない、障害をもっている人には合理的配慮が必要とされたことです。障害の在り無しにかかわらず、社会で共に活動するように定められた法律です。この法律を受けて、当会としては、全国の教会の方々にも障害への理解と配慮をお願いしていきます。

全教区の障害のある仲間を知る

カ障連のシンボルマークにあるように、一人ひとりが集まってひとつの「わ」になり、互いに霊的に支え合い、キリストの精神によって一緒に歩むことができるよう、各教区にカ障連組織が発足できるよう活動していきたいと思っております。

そのための第一歩として、個人情報やプライバシーの侵害に当たらないように下記のアンケート調査を行い、障害を持っていることで孤立している障害者に対して、一人でも多くの方を探し出し、その苦しみを担えるようカ障連として取り組んでまいります。

お忙しいところ誠に申し訳ございませんが、5月26日(金)までにアンケートにご記入の上、ご返送いただきますよう、ご協力よろしくお願ひいたします。またご記入の際、個人に詮索などなさらず、貴教会の中での知りうる情報のみで結構ですので、ご配慮のほどよろしくお願ひいたします。アンケート返送は同封の封筒をお使いください。

お問い合わせ先：日本カトリック障害者連絡
協議会 事務局

〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15
教区社会福祉委員会室内

tel 052-852-1426 fax 052-852-1422

★アンケート調査のお願い★

問1 教区名
小教区名

問2 アンケート記入者はどなたですか。
該当箇所に○をつけてください。
1. 司祭 2. 事務職 3. 信徒代表
4. その他

問3 あなたの教会の信徒在籍者数は 名

問4 障害のある信徒はいらっしゃいますか。
1. いる 2. いない 3. わからない

問5 問4の「いる」と答えられた方へ。
該当の箇所に○をつけ、差し支えな
ければ知りうる人数で結構ですのでご
記入ください。

1. 視覚 人
2. 聴覚 人
3. 言語 人
4. 盲ろう 人
5. 肢体不自由 人
6. 車いす利用 人
7. 知的 人
8. 発達 人
9. 精神 人
10. 内部疾患 人
11. 難病（病名や認定の有・無） 人

12. 上記に当てはまらない障害 人

問6 あなたの教会では障害者が参加しやす
いような配慮がされていますか。該当
の箇所に○をつけてください。

- (1) 送迎体制について
1. できている 2. できていない
 - (2) 身障者用トイレ 1. ある 2. ない
 - (3) 車いす用スロープ 1. ある 2. ない
 - (4) 車いす用スロープ板が
1. ある 2. ない
 - (5) 階段などに手すりが 1. ある 2. ない
 - (6) エレベーター 1. ある 2. ない
 - (7) 車いすを常備して 1. ある 2. ない
 - (8) 聖書と典礼の点訳版が
1. ある 2. ない
 - (9) お知らせの点訳版が 1. ある 2. ない
 - (10) 典礼・機関紙等の音訳版
1. ある 2. ない
 - (11) 聖歌集の点訳版・音訳版
1. ある 2. ない
 - (12) 手話通訳者について 1. ある 2. ない
 - (13) 要約筆記者について 1. ある 2. ない
 - (14) 声かけ対応について
1. ある 2. ない
 - (15) その他の配慮を行っている（具体的に）

問7 今後の障害のある方への接し方や対応
についておきかせください。

問8 アンケートに対するご意見等ございま
したらご記入ください。

問9 力障連に対するご意見ご要望などがあ
りましたら、ご忌憚なく記入をお願い
いたします。

アンケートの返送は同封の封筒をお使
いください。5月26日までにご記入の
上、ご返送くださいますようよろしくお
願いいたします。

お問い合わせ先：日本カトリック障害者連絡
協議会 事務局

〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町 2-15

教区社会福祉委員会室内

tel 052-852-1426 fax 052-852-1422

フェイスブック開設について

運営委員 田中 実

2017年3月10日付でカ障連のフェイス
ブックを開設しました。

フェイスブックは、友達や同僚、同級生、
近所の人たちと交流を深めることのできる
ソーシャルユーティリティサイトです。私た
ちが、カ障連フェイスブックを利用すれば、
カ障連の動きをより身近に早く確認するこ
とができます。更に全国のカ障連加盟団体や
仲間の動きを知ることができます。私たちの
仲間づくりと連携を、今まで以上に高めるこ
とが出来ると思います。

本来は、中断しているカ障連のホームペ
ージを早急に立ち上げるべきところですが、ま
ずはフェイスブックからスタートすること
にしました。ホームページは4月のカ障連
役員会で承認を得た上で早期には開設する
予定です。

フェイスブックの利用方法ですが、ホーム
ページと同じように、まずはパソコン及びス

マートフォンなどでインターネットに接続で
きる環境が必要です。そして、個人でフェ
イスブックに登録します。登録後に日本カ
トリック障害者連絡協議会を検索いただきま
すとご覧いただくことができます。サイトの
運営方法は当面は試行錯誤が続きますが、皆
さんのご意見を確認しながら改良を進めてい
きたいと思えます。

ホームページは内容をより深く知り、フェ
イスブックは時間軸で動きを知るツールにし
たいと考えています。どうぞご活用ください。
※下記画像はフェイスブックのテスト画面で
す。(2月23日現在)



研修セミナーに参加して

高崎教会 小池 政男

1 主なセミナー内容

第12回カ障連研修セミナーが2016.11.19
に名古屋のカトリック南山学園研修センター
で、講師は松浦悟郎名古屋教区司教様でした。
参加者は54名。

テーマは「平和をつなぐ・・・私、そして私
たちの選び」

講演内容

① 平和について

- 世界は第二次世界大戦の痛みを反省し、

二度と戦争を起こさないと動いてきました
が、それでも世界各地で紛争、戦争があり
無残な殺戮や建物破壊を繰り返されている。

● 教皇様はこのままでは第三次世界大戦にな
りかねない、今が大きな分岐点であると
危惧しておられる。

● 多くの難民が発生しており、今その難民を
支援するのではなく排斥の動きになってき
てしまっている。

● 大国の企業は大量の兵器を作っている。そ
れを使わなければ倒産してしまう。それが
紛争、戦争を起こす大きな要因では。経済
的利益を優先すれば紛争や戦争につな
がる。

● 最近では日本でも兵器製造が行われている。
さら だいがく へいきかい はつくに けんきゅうひ つ
更に大学に兵器開発の国の研究費が付くよ
うになった。

● 貧富の格差が益々広がっている。
世界の1%の人が世界の90%の資産を
持っている。その1%の人は年収1億以上
で残りの99%の人は350万円。

● 世界の金持ちの62人の資産は世界の36
億人の資産に匹敵している。

② 教会での政治や社会問題への対応法

● 教会では政治や社会問題に関わる話をし
ては困ると考えている人がいる。

● 教会や信徒は社会の一員であり、キリスト
の目線に立って政治や社会問題に関わっ
ていく使命を持っているのではないかと。

● 教会や信徒は単に情報の知識で終わるの
ではなく、むしろ痛みを持って気づくこと、
そして何をすべきかを見つけ行動する必要
があるのでは。

③ 日本国憲法改正について

● 憲法の前文と基本的人権、自由及び権利、
信教の自由について現憲法と自民党の

改正案の違いを説明していただきました。

④ 分かち合いと発表会

司教様の講演後に幾つかのグループに分か
れ、分かち合いと発表会がありました。

主なものを上げますと。

● 教会でこのようなお話を聞くのは初めて
如何にこれらのことに無知であったか知っ
た。

● 今まで教会で政治や社会問題に関わる話
は出来ない風土であったが司教様の話を聞い
て社会の一員として話していくことは当然
だと感じた。

● 武器産業への危機感を感じた。

● 教会で現憲法を守ることや格差社会に進
んでいることに目を向けて話し合うべきでは
ないか。

2 私が感じたこと

私は松浦司教様の今回の研修セミナーに
参加し、信徒の一人として以下の項目で感じ
たこと、また日頃から感じていたこと、更に
その後、幾つかの本を読み学んだことも含め
て書いてみました。

1 平和について

約70年前の第二次世界大戦では多くの
人々が殺し合ってしまったことを反省し、
二度と戦争しない決意を行い、世界は平和を
求めて歩み始めました。しかしそれでも世界
の各地では紛争が続き、その度に多く犠牲者
を生み出しています。

何故、紛争や戦争が繰り返されるのでし
ょうか。

色々な原因があると思います。政治が公平
に行われていないため貧富の格差、人権
侵害、利権争い、宗教や民族間の紛争等に対
して絶えず大国の介入が感じられます。大国
は軍事産業があり、大量の兵器を製造し消費

しなければ経営がおかしくなります。紛争が拡大すればするほど、軍事産業やその国は膨大な利益を生みます。反面紛争地では大量の殺戮と悲惨さ、そして多くの難民が路頭に迷っています。

このように紛争や戦争が起きることにより大国が利益を受ける構造がある限りなくならないと思います。

この構造を変えるためには国際司法裁判所等の権限を強め、各国に対して実行力のある裁定を出せるようにする必要がありますのではないのでしょうか。それが武力によらない平和を実現することになるのではないのでしょうか。

最近、日本企業でも兵器製造が始まっています。更に大学でも兵器開発費の補助金が年々拡大しております。国民の福祉等はずますます厳しくなっているのに？

何と言っても兵器は人を殺す道具です。これを使えば使う程紛争が拡大していくことは明らかです。

今日本の国は急速に変わろうとしています。その時の私たち信徒は、政治や社会の問題に関わらないことがイエスのみ旨でしょうか。

2 教会および信徒と社会、政治問題のかかわりについて。

日本のカトリック教会は、信徒に対して長い間、一般社会から隔離してあなたと神様の関係を大切にしなさいと長く教えられています。ですから社会問題に関心を示さない風土が続いて来たと思います。

しかし1965年の第二バチカン公会議で「開かれた教会づくり」として教会の刷新と同時に世界との対話が打ち出され、大きく方針が変わりました。

日本の教会もそれに合わせて1987年に第

1回福音宣教推進全国会議が開催され「開かれた教会づくり」として「日本の社会とともに歩む教会、人々と苦しみを分かち合い、社会の良心となり、新しい社会をつくる」を提唱しました。

そして「正義と平和協議会」や「社会司教委員会」を設立され、多くの社会問題に対してキリストの目線から政府や社会に発言されました。

しかし一部の司牧者や信徒の中には、今も過去の思いを持っておられ、教会では政治や社会問題を話してはいけないと今も思っている人たちからは困惑と疑問の声が上がりました。

そこで司教団は2007年に「信仰の自由と政教分離」、2012年に「なぜ教会は社会問題に関わるのか」を発行し、これらの疑問を分かりやすく説明してくれています。特に政教分離について勘違いしておられるのではないかと思います。政教分離とは、大きく分けて2つ前提があります。一つは「宗教は政治権力と結びついてはいけない」ということと、二つ目はかってキリスト教がひどい迫害を受けたように「国家は特定の宗教に介入してはいけない」という信仰の自由が保障されたということです。

ですから教会が政治や社会問題に関わっていけないということではなく、逆に政治権力に結びつかない限り、予言職の使命としてキリストの目線で世の中に貧富の格差等の不平等、平和、基本的人権、表現の自由等が脅かされそうな時には積極的に発言していく使命を持っているということです。

ですから教皇様や司教団が、その度ごとに色々な声明を発表し、私たちの歩むべき道を示してくれているのです。そのためには上記

の2冊を各教会で読みあい分かち合っている、本来の信徒として歩むべき道を各自の使命で活動されることをイエスは望んでいるのではないのでしょうか。そのためには如何に正確な情報を得るために目と耳を研ぎ澄まし関心を深めることにあつておもう。

マザーテレサは、愛の反対は無関心であると言っています。ルカ福音の金持ちとラザロの話は、金持ちは悪いことをしたから「よみの世界」へ行ったのではない。ラザロという何も出来ない、食べるものさえない人が目の前にいるのに関心を示さず、何も助けてあげなかったからと言われている。

あなた方もそうならないように常に関心をもち、困っている人がいたら助けてあげる人になって欲しいとイエスは伝えているのではないのでしょうか。

マタイの最後の審判で「のろわれた者たち、わたしを離れて、悪魔とその使いたちのために用意されている永遠の火に入れ。おまえたちは、わたしが飢えていたときに食べさせず、渴いていたときに飲ませず、旅をしているときに宿を貸さず、裸のときに着せず、また病気のとき、牢屋にいたときに訪ねてくれなかったからである」というであろう。とイエスははっきり言っています。

3 憲法改正について

松浦司教様も今自民党が考えている憲法改正案について、前文や信仰の自由等について危機感をもって説明してくださいました。

私もさいたま教区で2013年に緊急講演会が開催され、千葉大の憲法学者から、現憲法と2012年自民党が発表した憲法改正案を比較して説明して頂き、あまりにも違うので驚きました。(自民党案はインターネットで検索出来ます)

まず憲法前文で現憲法は国民が主権でありその国民の主権を守るために政府等が憲法を守るべきものなのに、自民党案は全く逆で国が主権となり国民がこの憲法を守りなさいとなくなってしまっています。驚きです。全く反対です。

天皇は、象徴天皇から元首に変わります。その行為は内閣で決めるとあります。国旗、国歌を尊重し、西暦ではなく日本の元号にのびなさいとまで書かれています。

基本的人権は、当面は認めるが将来の保障は削除されてしまっていますので将来は分からなくなります。

更に国民の自由及び公共の福祉は、国の公益及び公の秩序が優先され、それを乱すものは認められないと示されています。また9条についても現憲法の戦争放棄が自民党案では自衛隊を国防軍として集団的自衛権(海外での紛争支援)が認められます。(現憲法でも自国を守るための個別的自衛権は認められていますが、他国で戦う集団的自衛権も認められていません。しかし今の政権は憲法改正をしないで閣議決定で集団的自衛権がスタートしています。戦後日本は紛争等のために他国の人を殺したり、殺されたりしてきませんでした。この集団的自衛権の行使に犠牲者が出ることに必ずだとも思います)

また自民党案では集会、結社及び言論、出版等の自由についても公益及び公の秩序に害するものは認められないということは私たちにとって政府の方針に対して異を唱えることに大きな制限が出てくる可能性を秘めていると思います。

現憲法は基本的人権や自由が保障されたキリスト教的精神に沿っていますが今度の自民党改正案は国民を統制しやすく、且つ

げんろん じゆう せいげん か こ めいじけんぽう ちか
言論の自由を制限する過去の明治憲法に近い
ものに戻そうとしているように見受けられる
ことです。

もしそのようなことになれば過去の戦争の
時の何も言えない過酷な日本に戻ってくるよ
うな危惧を感じます。

このように今大きく日本の歴史が変わろう
としているのに何故かマスメディアや野党も
十分に国民に伝えていないことに私は大きな
危機感を感じています。

ですから私たちは自力で本を読んだり講演
会に参加したり信頼のおけるインターネット
などで正確な情報を把握して判断し行動するこ
とが大切なことだと思えます。

最後にドイツのプロテスタントの教会の
指導者の一人のマルティン・ニーメラー (1892-
1982) の詩を紹介したいと思います。彼はナチ
スの強制収容所に8年収容され解放されたた
き、自戒を込めて以下の詩を書いています。

かれ さいしよ きょうさんしゅぎ こうげき
「彼らが最初に共産主義を攻撃したとき」
かれ さいしよ きょうさんしゅぎ こうげき わたし
彼らが最初に共産主義を攻撃したとき、私
は声をあげなかった、私は共産主義でなかつ
たから。

しゃかいみんしゅしゅぎしゃ ろうごく い
社会民主主義者が牢獄に入れられたとき、
わたし こえ あ わたし しゃかいみんしゅしゅぎ
私は声をあげなかった、私は社会民主主義で
はなかつたから。

かれ ろうどうくみあいいん こうげき わたし
彼らが労働組合員たちを攻撃したとき、私
こえ あ わたし ろうどうくみあいいん
は声をあげなかった、私は労働組合員ではな
かつたから。

かれ じん つ い わたし
彼らがユダヤ人を連れて行ったとき、私は
こえ あ わたし じん
声をあげなかつた、私はユダヤ人ではなかつ
たから。

そして、彼らが私を攻撃したとき、私のた
めに声を上げる者は、誰一人残っていなかつ

た。

この詩も私たちに、政治や社会の動きに
むかんしん なに こうどう
無関心で何も行動しないでいると、自分自身
ひ こ
に火の粉がふりかかった時にはもう遅いこと
になることを教えてくれていると思えます。

ですから私たち信徒は、あくまでもキリス
トの目線で、社会の動きに関心を持ち、人々
が小さくされることのないように絶えず正確
な情報を掴み、活動していくことが大切では
ないでしょうか。

か め い だ ん たい し ょ う かい 加盟団体紹介

しゃかいふくしほうじん ひとつぶ むぎ かい
社会福祉法人 一粒の麦の会

り じ ち ょ う こ せ ら あ き ら
理事長 小瀬良 明

ほうじんしよざいち ながさきけん さ せ ほ し えむかえちようくりこし
法人所在地：長崎県佐世保市江迎町栗越
199 番地

カトリックの教えに基づく愛の奉仕の実践
おこな も ひと も ひと
を行い、ハンディを持つ人、持たない人がお
たが ぞんざい わ あ
互いの存在を分かち合い、あるがままを強
いことなく、ちいき なか い が い きょうゆう
いることなく、地域の中で生き甲斐を共有
せいかつしえん こ こ おう さぎょう こ こ
し、生活支援、個々に応じた作業をして個々
かのうせい じりつ め ざ ちいき なか
の可能性を見つけ、自立を目指し地域の中の
しゃかいさんか め ざ
社会参加を目指します。

マザーテレサは、世界各地でカルカッタに
てボランティアをしたいと申し出る方に、「カ
ルカッタまで来なくても貴方のまわりにはカ
ルカッタがあるでしょう」といわれました。

小さなカルカッタを心に秘めていてもなか
な じっこう かつた にっほん きゅうしゅう
な実行できない方、日本の九州の、そのま
た端っこの「サクラ」の中でもカルカッタに
であ
出会うことはできます。

せいれき ねん てんしょうけんおうしせつ
西暦1999年、天正遣欧使節をモチーフ

とした、ザビエル^{とらい}渡来^{しゅうねんきねん}450周年記念オペラ
 「忘れられた少年」^{わす}の平戸公演^{しょうねん ひらどこうえん}のために集結^{しゅうけつ}
 したボランティアのメンバーで、その^{みの}実りを
 今後も^{こんご}何か^{なに}の形で^{かたち}継続^{けいぞく}できないか、との^{おも}思い
 から江迎町^{えむかえちよう}の古民家^{こみんか}で障害者^{しょうがいしゃ}のための小規模^{しょうきぼ}
 作業所^{さぎょうしょ}「サクラ」^たを立ち^あ上げました。それが
 母^{ぼたい}となり、現在は^{げんざい}児童^{じどう}から高年齢者^{こうれいしゃ}、また、
 多様化^{たようか}する様々な福祉^{さまざま ふくし}のニーズ^{たいおう}に対応^{たいおう}するそ
 れぞれの事業所^{じぎょうしょ}を運営^{うんえい}する社会福祉法人^{しゃかいふくしほうじん}となり
 ました。

「サクラ」の由来^{ゆらい}は、愛^{あい}らしい桜^{さくら}の花^{はな}のよ
 うに皆^{みな}が明る^{あか}くなれるように、そしてラテン
 語^ごのサクラメント^{せい ひせき めぐ}（聖^{せい}なる秘跡^{ひせき}、恵^{めぐ}み）から
 きています。ここに集^{つど}うことでハンディ^もを持
 つ人^{ひと}、持たない人^{ひと}がお互^{たが}いの存在^{そんざい}にお恵^{めぐ}み
 を感じる^{かん}場^ばになるとい^{ねが}う願^{ねが}いをこめて「サクラ」
 と名^な前^{まえ}をつけました。

まず愛^{あい}すること、創^{つく}り出^だすこと、伝^{つた}えるこ
 と、そして本^{ほん}当^{とう}に自^じ分^{ぶん}た^たちのや^やりた^{たい}いこ^こを
 実^{じつ}現^{げん}させるには、知^ち恵^えを絞^{しぼ}り、働^{はたら}き、行^{こう}動^{どう}
 なければなりません。一^{ひとり}人^{ひと}でも多^{おほ}くの人^{ひと}に、
 「サクラ」のな^なか^かで、カル^かル^かッ^たを見^みつけ^て
 ほ^{ねが}しいと願^{ねが}っています。

（関連事業所）

- 指定^{していしょうがいふくし}障害福祉^{じぎょうしょ}サービス事業所^{じぎょうしょ}サクラ
 多機能型^{たきのうがた}（生活^{せいかつかいご}介護^{しゅうろうけいぞくしえん}・就^{がた}労^{らう}継続^{けいぞく}支援^{しえん}B型）
- ケアホームサン（障害者^{しょうがい}グループホーム）
- 放課後^{ほうかごとう}等^{とう}デイサービス^{じぎょうしょ}事業所^{じぎょうしょ}チェリー
 児童^{じどう}発^{はつ}達^{たつ}支^し援^{えん}事業所^{じぎょうしょ}チェリー
- 放課後^{ほうかごとう}等^{とう}デイサービス^{じぎょうしょ}事業所^{じぎょうしょ}さくらんぼ
 児童^{じどう}発^{はつ}達^{たつ}支^し援^{えん}事業所^{じぎょうしょ}さくらんぼ
- サー^つビス^{こうれいしゃふくごうせつ}付^つき高^{こう}齢^{れい}者^{しゃ}複^{ふく}合^{ごう}施^{せつ}設^{せつ}パ^つスカ^か
- 指定^{していとくてい}特^{とくてい}定^{てい}相^{そう}談^{だん}支^し援^{えん}事業所^{じぎょうしょ}サクラ（指定^{していとくてい}特^{とくてい}定^{てい}
 相^{そう}談^{だん}支^し援^{えん}事業^{じぎょう}・指^し定^{てい}障^{しょう}害^{がい}児^い相^{そう}談^{だん}支^し援^{えん}）
- 就^{しゅうろうけいぞくしえん}労^{らう}継続^{けいぞく}支^し援^{えん}事業所^{じぎょうしょ}サクラ.Co

さっぽろ ^{かていしえん}
札幌カリタス家庭支援センター

^{きくち} ^{ひではる}
菊池 秀治

カリタス家庭支援センターは、2004年5
 月にカトリック札幌教区^{さっぽろきょうく}の公認^{こうにんだんたい}団体^{たい}として
 発^{はつ}足^{そく}しました。当^{とう}センター^{かっとう}の活^{はしら}動^{そうだん}の柱^{ちゅう}は相^{しえん}談^{だん}
 支援^{しえん}です。しかも相^{そうだんりょういき}談^{げんてい}領^{りょう}域^{いき}を限^{げん}定^{てい}しない「よ
 るず相^{そうだん}談^{だん}」、あ^{かた}ら^よゆる方^{かた}から寄^よせられる様^{さま}々^{ざま}
 な相^{そうだん}談^{だん}に、2名^{めい}の相^{そうだんいん}談^{しゃかいふくしし}員^{せいしん}（社^{しゃ}会^{かい}福^{ふく}祉^し士^し・精^{せい}神^{しん}
 保^ほ健^{けん}福^{ふく}祉^し士^し）が日^ひ々^び対^{たい}応^{おう}に奮^{ふん}闘^{とう}しておりま
 す。2015年度^{ねんど}の相^{そうだんじつじんいん}談^{めい}実^じ人員^{じんいん}は119名、そ
 の対^{たい}応^{おう}総^{そう}件^{けん}数^{すう}は1,955回。相^{かい}談^{そうだんしゃ}者^{しゃ}は、カト
 リック信^{しん}徒^と42%、プロテスタント信^{しん}徒^と5%、
 いっ^{いっ}ぱん^{ぱん} ^{さっぽろし}ない ^{そうだん}
 一^{いっ}般^{ぱん}53%で、札幌市^{さっぽろ}内^{ない}から^{そうだん}の相^{かい}談^{そうだんしゃ}が84%と
 あ^あっ^あと^あう^あて^あき ^{おお} ^{じょうき}よう ^{ほっかいどうがい}
 圧^あ倒^あ的^あに多^{おほ}い状^{じょう}況^{きやう}ですが、北^{ほっかい}海^{かい}道^{どう}外^{がい}から^ご
 の相^{そうだん}談^よも寄^よせられていま

す。電話^{でんわ}や来^{らい}所^{じょ}や訪^{ほう}問^{もん}にてお話^{はなし}を伺^{うかが}うと、病^び気^き
 や障^{しょう}害^{がい}、お^お金^{かね}、人^{にん}間^{げん}関^{かん}係^{けい}等^{など}の色^{いろ}々^{いろ}な困^{こま}りご^{ごと}
 とが、お一人^{ひとり}の方^{かた}の中^{なか}で複^{ふく}雑^{ざつ}に絡^{から}み合^あっている
 場^ば合^{あい}が多^{おほ}く、相^{そうだんいん}談^{しやく}員^{そうだんしゃ}は主^{かた}役^{やく}である相^{そうだんしゃ}談^{かた}者^{しゃ}の方^{かた}
 と横^{よこ}並^{なら}びに立^たつ感^{かん}覚^{かく}で、そ^{かた}の方^{かた}が直^{ちよく}面^{めん}してい
 る困^{こま}りご^{ごと}の構^{こう}図^ずを一^{いっ}緒^{しよ}に見^み極^{きく}め、一^{いっ}緒^{しよ}
 に対^{たい}処^{たい}法^{ほう}を考^{かんが}えます。そ^{ひつ}して必^{ひつ}要^{よう}と思^{おも}われる
 社^{しゃ}会^{かい}資^し源^{げん}（専^{せん}門^{もん}機^き関^{かん}や制^{せい}度^ど、人^{じん}材^{ざい}等^{など}）の情^{じょう}報^{ほう}
 をお伝^{つた}えしつ^つ、表^{ひよう}面^{めん}には見^みえづら^らいご本^{ほん}人^{にん}
 の葛^{かつ}藤^{とう}や、人^{にん}間^{げん}とし^ての普^ふ遍^{へん}的^{てき}な苦^く悩^{なう}を共^{きやう}有^{ゆう}
 できるよ^{つと}う努^とめま

す。また、私^{わたし}たちはご本^{ほん}人^{にん}の了^{りやう}解^{かい}を得^えながら、
 人^{ひと}とのつな^なが^だり^{たい}を^{せつ}生^{せい}み出^だすこ^こも大^{たい}切^{せつ}にして
 います。た^おと^なえ^{くろ}ば、同^{おな}じ苦^く勞^{らう}を^{かか}抱^{とう}える当^{とう}事^じ者^{しゃ}
 仲^{なか}間^まや自^じ助^{じよ}グ^{きやう}ル^{かい}ー^{かい}プ^{かい}とつな^なが^なつ^なたり、教^{きやう}会^{かい}の
 方^{かた}や専^{せん}門^{もん}領^{りょう}域^{いき}の方^{かた}の協^{きやう}力^{りよく}を得^えたりするこ^こ
 とで、ご本^{ほん}人^{にん}はも^もち^ちろ^ろん^んのこ^こと、相^{そうだんいん}談^{じしん}員^{じしん}自^じ身^{しん}も
 そ^そこ^こから多^たく^たの助^{おほ}け^{たす}と学^{まな}びを^まら^まら^まっていま

す。気付けば、困りごとという困難を通して、そこに人のつながりと循環ができはじめ、仮に問題そのものの解決には至らなくても、孤立感・孤独感・閉塞感といったものが自然と薄らいでいることもあります。



相談者の歩みに寄り添う相談支援は、その関わりが中長期にわたる場合もあり、「変えられないものを受け入れる落ち着き、変えられるものは変えていく勇気、そして二つを見分ける賢さ」を求める「平安の祈り（ラインホルド・ニーバー）」に支えられる日々です。

センターは相談事業のほか、カトリック諸団体との協力・連携活動も行っており、2015年8月に行われたカ障連札幌大会では、事務局としてその役割を果たしました。現在も教区内の障がい者支援窓口を務めており、主要な行事での障がい者支援を一元的に行っております。他のカトリック団体同様、運営費の多くが会員・賛助会員の会費と寄付によって支えられており、安定的な事業運営がなかなか確立できないという大きな課題を背負っていますが、北の大地に灯された光を、これからも精一杯守り続けていきたいと思っております。



第12期 第4回役員会報告 (第98回)

日時：2016年11月19日(土)～20日(日)
会場：南山学園研修センター (名古屋)

1 第12回研修セミナー開催

講師：松浦悟郎名古屋教区司教

日時：11 / 19日(土)

テーマ：「平和をつなぐ・・・私、そして私たちの選び」 参加者数 54名

内容：講演を聞く→グループに分かれてのわ

かちあい→グループ発表→司教さま総評

2 相模原市障害者殺傷事件に対する 声明文について江戸会長より経過報告

原案を役員の見意を取り入れ修正し声文を完成。11月発行の「わ」に掲載。

今後の掲載先予定 カトリック新聞、キリスト教新聞、その他

3 横浜大会実行委員会の進捗状況

9 / 29 実行委員とカ障連役員と横浜教区と打ち合わせ、「教区を挙げて協力したい旨の言葉を頂く」

・大会開催日：10月20日(土)～21日(日)開催決定。

- ① 会場：横浜聖光学園に決定。
- ② 宿泊は各ビジネスホテル等のリスト表を示して申し込みは各自ですて頂くこととしたい。
- ③ 実行委員会の意向を合わせて力障連としては支援や提案をしていく。
- ④ 実行委員会には江戸会長を中心に出来るだけ参加していく。次回は11月24日予定。

4 全国の教会へのアンケートについて

- ① 今までの役員会や今回の役員会も含めてアンケート案をほぼ整理が出来たので最終的には役員へのメールで最終確認をして決定する。
- ② 全国の教会への発送は4月頃としたい。
- ③ 会長・先ず知りたいのは小教区に障害者がいるかどうかということ。そして支援に繋がっていきたいとの思いがこのアンケート。

5 パンフレット「ともに生きる」

- ① 今までの役員会と今回の役員会でほぼ整理出来たので役員へのメールにて最終の決定を行うこととした。
- ② 印刷部数 10,000部
- ③ アンケートに同封する。

6 会計報告

- ① 横浜大会費用の分担金の一部を横浜の実行委員会に渡すこととした。

7 ホームページ

現在のホームページの更新は難しいので新たなものとしてホームページを検討するが、その前に先ずは「フェイスブック」を先に立ち上げたい。(本誌紹介文あり)

8 その他

- ① 加盟団体の意見交換会・役員会の日時と場所検討。
- ② 早急に東京方面を探す。
- ③ 日程 第1案 4月21日～23日、第2案 4月22日23日(役員会のみ)

- ② 次々回役員会会場は大阪(案) 7月30日～31日又は6/30～7/1
場所 宝塚黙想の家

大阪の近況報告・協力依頼(田中)

- ③ 大阪フレンドリーでの2017.2/11世界病者の日の献金先を力障連を通して「筋通性脳脊髄炎の会 代表 篠原三恵子」としたい。

- ④ 広報 小池担当より機関誌「わ」発行について経過報告と今後の予定案が出された。

79号 2016.11月29日発行
80号 2017年3月28日発行(予定) 新パンフレット同封する。
⑤ 機関誌「わ」の点訳、音訳版の送付者リストに一部未整備があったので事務局で再度確認を行う。以上

※振込に際してのお願い

皆様からの温かいご支援で力障連の活動は支えられております
ご寄付をお寄せいただく場合は通信欄に「寄付」とご記入いただきますようよろしくお願い致します

日本カトリック障害者連絡協議会会報

事務局：〒466-0037 名古屋市中区昭和区恵方町2-15
カトリック名古屋教区社会福祉委員会室内
Tel：052-852-1426 fax：052-841-2225

郵便局振替口座番号：00100-7-31254
(同封の振込用紙をご利用ください)

会費：年間1口 1,000円
(団体 10口以上 個人 1口以上)

加入者名：日本カトリック障害者連絡協議会